

PCなどオープンアーキテクチャデジタル放送受信機に対応する権利保護システムの研究開発（富士通株式会社）平成16年度事後評価結果

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>本研究開発は、PCによるデジタル放送受信に対応する著作権管理（DRM）システムの研究開発である。システム構築自体は十分な実現可能性を持つ課題であり、既存技術の組み合わせが基本ではあったが、実際に耐タンパーデバイスとPCとを組み合わせシステムを実装することは高い技術開発力が要求されるし、その組み合わせや実装の具体的方法には、新規性も認められる。耐タンパーLSIの試作を行い、プロトタイプ開発まで行ったことは、現段階で高い技術優位性を持つ可能性があり、さらに適用PCの汎用性と（注）にも優位性が存在している。</p> <p>このような高いセキュリティを要する方式では、第三者等による安全性評価を受けることが今日の流れであり、提案方式の安全性評価を学会や第三者評価を利用して行うべきことが中間評価でも指摘されたが、この点が今後の課題として残った。</p> <p>また、研究発表は社内誌1件（2004.11）のみであり、学会等での議論があまりにも少ない。安全性評価法も含めたオープンな議論が今後望まれる。</p> <p>今後大きく拡大が見込まれるデジタルTVチューナ搭載PC市場において、大きな価格優位性を武器に大幅なシェア獲得を目指す意欲的な事業計画である。製品化までの確度は非常に高く、また（注）もあるなど、大きな初期シェアを獲得する公算は高い。同等のコストパフォーマンスを持つ他社製品の市場参入など、若干の不透明感はあるものの、全般的に優れた事業化計画である。</p>

（注）総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。